

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	武雄市立東川登小学校						
1 前年度 評価結果の概要	・「学力向上」としては、全職員が「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、ICTを活用した授業改善に取り組み学力の定着を目指す授業実践を重ねたが、児童の学力が向上したとはいいがたい。来年度も継続して授業改善に取り組む。 ・「心の教育」に関しては、生活アンケートや教育相談週間での面談等の取組により、いじめの早期発見、早期対応をすることができた。今後も「学校が楽しい」と答えることができなかった子どもに焦点を当てて、組織で対応していくことを心がけていく。 ・学校での人権教育に関する取組を学校だよりや学級だより、HP等で保護者や地域の方に広く発信し、ともに学び合う機会ももつことで成果が得られた。本年度の重点①は高評価できる。今後も継続して取り組んでいきたい。 ・ふるさとを誇りに思う教育活動は、生活科や総合的な学習の時間などを通して、地域との交流をしながらふるさとのよさを体験的に学ぶことができている。今後も、郷土学習や地域人材の活用をしながら持続可能な学習の充実を図っていく。						
2 学校教育目標	自ら気づき、考えて、行動する子どもの育成 ～やさしく かしく たくましく～						
3 本年度の重点目標	① 「学習者主体」の授業づくり、単元を見通した授業改善を図る。 ② ひと もの ことをつなげるカリキュラムマネジメントを推進する。						
4 重点取組内容・成果指標					5 最終評価		
(1)共通評価項目							
重点取組		成果指標 (数値目標)		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・ICTを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。	○「学年に応じた課題を見つけ、解決する方法を考え、課題を解決することができた」と答える児童が80%以上。 ○「授業を通して、学習内容が身についたと思う」と答える児童が80%以上。	A		A		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「相手の気持ちを考えることができる」と回答した児童90%以上、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童90%以上。	A		A		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校は楽しい。」と回答した児童90%以上。	A		A		
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童85%以上	A		A		
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)					
●健康・体づくり	◎「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	◎食事・健康に関する調査用紙で「健康のことを考えて何でも食べようとしている」と回答した児童90%以上	A		A		
	○防災・安全に関する資質、能力を伸ばす取組の充実。	○災害時に自分の命は自分で守ることがまもることが大切であると考える児童が95%以上。	A		A		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	A		A		
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)					
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性の向上を目指す教育活動に努めたと回答した教員90%以上	A		A		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組		成果指標 (数値目標)		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○ふるさとを誇りに思う教育活動	○ふるさとを誇りに思う教育活動	○東川登町の自慢を答えることができた児童90%以上。 ○地域の方に教わりながらする学習は自分のためになっていると回答した児童90%以上。	A		A		
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)					
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育							
5 総合評価・ 次年度への展望	・「学力向上」としては、全職員が「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、ICTを活用した授業改善に取り組み学力の定着を目指す授業実践を重ねたが、児童の学力が向上したとはいいがたい。来年度も継続して授業改善に取り組む。 ・「心の教育」に関しては、生活アンケートや教育相談週間での面談等の取組により、いじめの早期発見、早期対応をすることができた。今後も「学校が楽しい」と答えることができなかった子どもに焦点を当てて、組織で対応していくことを心がけていく。 ・今後も年間を通して支援・配慮を意識した指導や研修を充実させ、教職員の特別支援教育に関する専門性の向上を目指す。 ・ふるさとを誇りに思う教育活動は、生活科や総合的な学習の時間などを通して、地域との交流をしながらふるさとのよさを体験的に学ぶことができている。今後も、郷土学習や地域人材の活用をしながら持続可能な学習の充実を図っていく。						

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	武雄市立東川登小学校						
1 前年度 評価結果の概要	・「学力向上」としては、全職員が「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、ICTを活用した授業改善に取り組み学力の定着を目指す授業実践を重ねたが、児童の学力が向上したとはいいがたい。来年度も継続して授業改善に取り組む。 ・「心の教育」に関しては、生活アンケートや教育相談週間での面談等の取組により、いじめの早期発見、早期対応をすることができた。今後も「学校が楽しい」と答えることができなかった子どもに焦点を当てて、組織で対応していくことを心がけていく。 ・学校での人権教育に関する取組を学校だけでなく学級ごと、HP等で保護者や地域の方に広く発信し、ともに学び合う機会をもつことで成果が得られた。本年度の重点①は高評価できる。今後も継続して取り組んでいきたい。 ・ふるさとを誇りに思う教育活動は、生活科や総合的な学習の時間などを通して、地域との交流をしながらふるさとのよさを体験的に学ぶことができている。今後も、郷土学習や地域人材の活用をしながら持続可能な学習の充実を図っていく。						
2 学校教育目標	自ら気づき、考えて、行動する子どもの育成 ～やさしく かしく たくましく～						
3 本年度の重点目標	① 「学習者主体」の授業づくり、単元を見通した授業改善を図る。 ② ひと もの ことをつなげるカリキュラムマネジメントを推進する。						
4 重点取組内容・成果指標					5 最終評価		
(1)共通評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・ICTを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。	○「学年に応じた課題を見つけ、解決する方法を考え、課題を解決することができた」と答える児童が80%以上。 ○「授業を通して、学習内容が身についたと思う」と答える児童が80%以上。	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で話し合う活動を設定するとともに、タブレット活用により学習の個性化を図る。 ・児童による授業評価を年に2回行う。 ・自学量を高・中・低と行うことで、内容の充実を図る。	A		A	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「相手の気持ちを考えることができる」と回答した児童90%以上、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童90%以上。	・地域の方々との交流活動やふれあい道徳を実践し、人権教育との相互充実を図る。 ・児童会を中心としたアルミ缶回収等ボランティア活動をより主体性をもたせた取組として改善・充実を図る。	A		A	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校は楽しい。」と回答した児童90%以上。	・Q-Uアンケートや生活アンケート、教育相談週間の活用を通して、いじめに対する迅速かつ組織的対応の徹底を図る。 ・たて割り班活動の充実を図る。	A		A	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童85%以上	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組み、育みたい資質・能力を焦点化する。 ・教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みを実践し、キャリアパスポートを活用する。	A		A	
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・				
●健康・体づくり	◎「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	◎食事・健康に関する調査用紙で「健康のことを考えて何でも食べようとしている」と回答した児童90%以上	・早寝早起き朝ごはんアンケートを実施し、日々の給食指導に役立てる。 ・委員会での給食週間の取組を充実させる。 ・定期的に保健だよりや食育だよりを発行する。	A		A	
	○防災・安全に関する資質、能力を伸ばす取組の充実。	○災害時に自分の命は自分で守ることがまもることが大切であるとする児童が95%以上。	・年間の避難訓練や外部講師を招いての防災教室などを通して児童の防災意識を高める。	A		A	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・月1回それぞれの職員に自分の勤務状況を示し、勤務時間の削減を図る。 ・「働き方改革」を推進するための協議の場を年間2回以上設定する。	A		A	
●特別支援教育の充実	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・				
	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性の向上を目指す教育活動に努めたと回答した教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有を密にとる。	A		A	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○ふるさとを誇りに思う教育活動	○ふるさとを誇りに思う教育活動	○東川登町の自慢を答えることができた児童90%以上。 ○地域の方に教わりながらする学習は自分のためになっていると回答した児童90%以上。	・生活科・総合的な学習の時間と関連させてゲストティーチャーを招くなど、地域の特色を生かした学習の充実を図る。	A		A	
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・				
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育							
5 総合評価・ 次年度への展望	・「学力向上」としては、全職員が「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、ICTを活用した授業改善に取り組み学力の定着を目指す授業実践を重ねたが、児童の学力が向上したとはいいがたい。来年度も継続して授業改善に取り組む。 ・「心の教育」に関しては、生活アンケートや教育相談週間での面談等の取組により、いじめの早期発見、早期対応をすることができた。今後も「学校が楽しい」と答えることができなかった子どもに焦点を当てて、組織で対応していくことを心がけていく。 ・今後も年間を通して支援・配慮を意識した指導や研修を充実させ、教職員の特別支援教育に関する専門性の向上を目指す。 ・ふるさとを誇りに思う教育活動は、生活科や総合的な学習の時間などを通して、地域との交流をしながらふるさとのよさを体験的に学ぶことができている。今後も、郷土学習や地域人材の活用をしながら持続可能な学習の充実を図っていく。						